

福祉文化通信

～ Well-being への道～

2016.3.31
Vol. 79

●発行者／広報委員会
稲田 泰紀・関矢 秀幸
●制作／長瀬 さやか

日本福祉文化学会事務局 〒165-0026 東京都中野区新井 2-12-10 芸術教育研究所内 Tel/Fax : 03-5942-8510 E-mail:fukushibun@lagoon.ocn.ne.jp

福祉文化通信～Well-beingへの道～

2015年度理事会・評議員会報告 — 前嶋 元

今年度は理事会3回、評議員会1回実施した。

第1回理事会は2015年5月16日(土)に実施。議題は「2014年度決算及び監査報告／2015年度ブロック活動・委員会実施計画／福祉文化実践学会賞の選考／『福祉文化実践報告集』印刷後の投稿者の対応」等であった。

第2回理事会・第1回評議員会は2015年10月25日(土)に実施。議題は「2015

年度前期事業報告・後期事業予定／2015年度決算報告・後期予算執行見込み／2016年度事業方針(案)・予算書(案)／会員の論文の剽窃問題／2016年度現場セミナー／『安全保障関連法案に対する声明』」等であった。

第3回理事会は2016年1月23日(土)に実施。議題は「2016年度事業計画(案)／会員の論文の剽窃問題／『安全保障関連法案に対する声明』／『入会促進方策検討

のためのアンケート』結果を踏まえた事業改善／『福祉文化研究』の投稿規定」等であった。毎回、活発に議論が交わされた。



会長になるにあたって私は、「プログラムナルホド」と「ワークブックドキ」という二つのフレーズをそのスローガンとして掲げた。

会員の方々がどれだけこの「学び・気づき」と「発見・感動」を感じられたかどうか、正直心許ないところもあるが、この通信で報告されている各ブロックや各委員会の活動を読めば、着実にその取組が進んでいるものと確信できる。

一方でここに書かれていないが大変嬉しいブロック活動復活の動きもある。沖縄ブロックである。昨年の神戸大会で、福祉文化実践学会賞が沖縄福祉文化を考える会に与えられたことは記憶に新しい。沖縄の地でその歴史や文化、そして暮らしに根ざした活動を継続的に行ってきたこの団体が中心となって、沖縄での現場セミナーが今計画中である。2001年に現場セミナーを大々的にやって以来、実に15年ぶりとなる。さらに福島県飯館村でも現場セミナーを計画中である。これらが単なるイベントとして終わるのではな

日本福祉文化学会 2015年度総括と2016年度方針 来年度は会員一人ひとりの力で、 更なる気づきと感動を！

日本福祉文化学会 会長 馬場 清



会長になるにあたって私は、「プログラムナルホド」と「ワークブックドキ」という二つのフレーズをそのスローガンとして掲げた。

会員の方々がどれだけこの「学び・気づき」と「発見・感動」を感じられたかどうか、正直心許ないところもあるが、この通信で報告されている各ブロックや各委員会の活動を読めば、着実にその取組が進んでいるものと確信できる。

く、それぞれのブロックの継続的な活動につなげていきたい。

さらに広報委員会の活動も見逃せない。ホームページからの情報発信、通信の発行等、地道で目立たないが、以前よりはるかに充実した活動が展開されている。今後はメルマガも充実させていく予定である。会員の皆さんには、是非定期的に学会HPを

第27回日本福祉文化学会全国大会(東京大会)のご案内

大会長 月田みづえ

テーマ 多様化する家族のあり方と福祉文化(仮)

日程 2016年10月22日(土) 23日(日)

会場 東京立正短期大学

昨年度の神戸大会に続き、本年度は、東京大会。「福祉文化学会ならでは」の大会を「東京らしく」、「会場校(杉並区)らしく」実施したいという思いのもとに運営委員会を充足し、準備を進めている。

家族や地域関係の崩壊といわれる今日、本大会を機会に、多様化する家族とそれを支える地域や福祉、文化のあり方を考える、行動に移す。そのために、多くのみなさまのご参加を期待している。



会場となる東京立正短期大学

文化の交差点

衣・食・住が逆

通常私たちは「衣・食・住」と言う。しかし、デンマークでの実際は「住・食・衣」の順だった。住居には非常に力を入れていて、広い空間、資材の耐久性、外壁は60cm標準と決まっています。外壁、断熱材、内壁が各20cmである。電気・電話・上下水道・温水が地下配管で入る。サービス事業所、例えば老人集合住宅などは行政が街の中心部に広い敷地を確保し交通至便、スーパ、図書館、公園やランドもあるなど平等を超え優遇すぎないかと思える程だ。これぐらいでお年寄りや障がいを持つ方に平等である」と住民は応える。「福祉は住宅政策である」とも言う。日本の特養などが河川敷や山を切り崩したところに建て、水害や土砂災害にみまわれたりするニュースを聞くたびに捨てて思想が現代にも生きていく。経済的理由だけではな

いと思ってしまう。風土性、石と木の文化の違いなどだけではないものを感じ、住が豊かで安全充実した生活の土台であると実感する。

次に食。農民は国民の4%位にまで減少しているが、農と自然環境の保全は一住とのふれあい農業政策にささげられ健康安全な食品を十分に生産し、輸出している。一日6食とか。10時、15時の夕食後だ。「肥りすぎる」と言ったり、や、6回に分けて少しずつ食べるのがよい。」との答えだ。でも、肥満の人も目立つ。野菜・果実などは自国産を保護し安全性も高いが、品種改良、栽培技術、手間暇かけての手作り努力などは日本の援助が有効らしい。

衣は全国民が普段着着用品風で権威的ではない。ネクタイ着用は少ない。職種や習慣に関わらず「平等」であり費用もかけすぎではない。衣類以外の日用品なども含め「セカンドショップ」の利用

も当たり前に行われている。日本とは逆だと思った。「福祉の文化化」「文化の福祉化」にも通じる私の研究テーマである「ノーマリゼーションの成立過程」は序説を書き終えたばかりだが、バンク・ミケルセンにハンス・ハラルド・コックを重ねることと、源流を「北欧デモクラチ」に求めることでまとめられるように思い出している。

デンマーク ボーゲンセでの生活から福祉文化を考える ③

日本福祉文化学会評議員 大澤 澄男



バンク・ミケルセン夫妻の墓

会員情報

- 2016年2月29日までに、ご入会された方のお名前と所属ブロックをお知らせ致します。(敬称略)
・中島智 (関東)
- 2016年2月29日現在
(会員数)
・個人会員 325名 ・団体会員 8団体

編集後記

今年度から「福祉文化通信」がカラーの紙面となりデザインが一新されました。皆さまから見ていただければ幸いです。また、お知らせの方々に学会周知(お誘いも合わせて)をお願いいたします。活動については学会ホームページも参照ください。

福祉文化通信についての感想など、事務局までお気軽にお寄せ下さい。(箱)

| | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 会長 | 馬場 清 | 理事 | 松原 徹／中・四国ブロック |
| 副会長 | 岡村ヒロ子／国際交流委員会 | 理事 | 日比野 正己／九州ブロック |
| 副会長 | 永山 誠／実践学会賞選考委員会 | 評議員 | 相内 真子／北海道ブロック |
| 顧問 | 園田 碩哉 | 評議員 | 小坂 享子／関西ブロック |
| 理事 | 渡邊 豊／総務委員会 | 評議員 | 結城 俊哉／関東ブロック |
| 理事 | 多田 千尋／企画委員会 | 評議員 | 大澤 澄男／北陸ブロック |
| 理事 | 川北 典子／企画委員会 | 評議員 | 福山 正和／関西ブロック |
| 理事 | 佐藤 嗣道／研究委員会 | 評議員 | 志賀 俊紀／九州ブロック |
| 理事 | 稲田 泰紀／広報委員会 | 評議員 | 和泉 とみ代／中・四国ブロック |
| 理事 | 藤原 一秀／災害と福祉文化委員会 | 評議員 | 太田 貞司／関東ブロック |
| 理事 | 月田 みづえ／研究誌編集委員会 | 評議員 | 久保 美紀／関東ブロック |
| 理事 | 佐々木 隆夫／実践報告委員会 | 評議員 | 本多 洋実／研究誌編集委員会 |
| 理事 | 今野 道裕／北海道ブロック | 評議員 | 中島 洋／研究誌編集委員会 |
| 理事 | 梅津 道子／関東ブロック | 監事 | 五十嵐 真一 |
| 理事 | 坂本 道子／中部・東海ブロック | 監事 | 加藤 美枝 |
| 理事 | 石井 パークマン 麻子／北陸ブロック | 事務局長 | 前嶋 元 |
| 理事 | 脇坂 博史／関西ブロック | 事務次長 | 阿比留 久美 |

研究委員会担当理事 佐藤 嗣道

「持ち寄りゼミ」をもとに「福祉文化批評」

研究委員会では、昨年新たにスタートした「持ち寄りゼミ」を2カ月に1回のペースで続けています。菌田顧問のご指導のもと、メンバーが様々なテーマを持ち寄り、福祉と文化の2つの視点から検討する自由な意見交換の場です。これまでに、映画「0.5ミリ」(介護を題材とした映画)鑑賞、児童虐待・学校教育、地域での子育て・支えあい、介護サービスにおける賭けごとの是非をテーマに持ち寄りしました。その成果の一部が3月刊行の「福祉文化研究」誌25号に「福祉文化批評」として公表されます。

また、ホームページにゼミ開催のお知らせと報告を掲載するとともに、新たに「福祉文化批評」というコラムを掲載しています。第1回は「賭け事は介護予防に役立つ」(菌田碩哉)です。皆様もテーマや素材を持ち寄りませんか。ご参加をお待ちしております。興味のある方は事務局までご連絡ください。

災害と福祉文化委員会担当理事 藤原 一秀

災害と福祉文化委員会「新春落語会」

気仙沼市内・気仙沼大島・釜石の3か所、桂福丸さんによる新春落語会を開催した。福丸さんは高校在学中に阪神淡路大震災で被災され、避難所暮らしを経験。落語だけでなく震災についても積極的に講演している。そんな福丸さんと阪神淡路大震災から21年目の1月16日、17日に東北の被災地に訪れたことで、落語会がさらに意味深いものとなった。

1か所目の会場は、気仙沼港の近くで津波に耐えた建物を改修した地域の集い場で、会場の周囲には仮設店舗が並んでいたが、港の周囲は更地のままであった。

2日間で3公演は非常にタイトなスケジュールではあったが、各会場とも満員で合わせると約150名の地域の方に落語を楽しんでいただいた。



編集委員会担当理事 月田 みづえ

『2016 Vol.25 福祉文化研究』の刊行にあたり、多くの会員のみなさまに執筆、査読等にご協力いただいたことを感謝する。

論文、研究ノート、現場実践論、諸表に加え、「特集テーマ」ともに生きる力を育む地域や「日本福祉文化学会第26回神戸大会報告」に加え、今回から新たな企画として「福祉文化批評」を掲載した。

また、次号からのWeb化や倫理規約の明確化にともない、投稿規程を見直しや査読体制の強化をおこなった。さらに、過去の投稿論文に剽窃問題が生じたことを受けた対応をした。Web化しても、執筆者などの要望にそって、一部、紙媒体の印刷も行う予定であり、引き続き、多くの方々に投稿をお願いしたい。

関東ブロック担当理事 梅津 迪子

関東ブロック「第4回セミナー」

現代社会の家族の姿 ～児童養護施設・児童保育・小学校の現場から～

日時/2016年2月28日(日) 13:30～16:30
場所/立教大学池袋校舎 16号館第一会議室
参加者/27名

- 関根 美智子氏 (児童養護施設あいの実 理事長)
- 佐藤 朝代氏 (児童保育室 けやの森学園理事長)
- 中村 一夫氏 (日高市高麗川小学校校長)
- 〈司会〉月田 みづえ氏 (昭和女子大学教授)
- 〈コメントーター〉結城 俊哉氏 (立教大学教授)

上記の順番で子どもを通して見える家族の姿について語っていただき、参加者と意見交流を行った。

児童養護施設は全国に約600あり、社会全体で育む「社会的擁護」者は2歳～18歳(現22歳)の約3万人である。施設だけでなく民家やアパートを利用したグループホームが増えているが、かつては入所理由が父・母の行方不明、父母の離婚、父母の精神疾患、虐待の順であったが、近年ではとびぬけて「虐待」が多く、「あいの実」も同様であるが、入所理由は重複している。また、母親が精神疾患の子どもの80%はなんらかの虐待を受けているのである。児童保育では、問題行動(暴力的)の子ども達の多くが片親であり、連絡もとれない親やパートをかけたもちせざるを得ない状況や精神的に追い込まれる姿が窺えたり、連絡が取れない親がいたりする。中村氏は小学校でのさまざまな具体例を教示し、子どもにみられる共通の問題点として母子家庭(経済的貧困)、仕事に追われ育児にかけてもらえる時間の少なさ、生活リズムの崩壊(ゲーム、SNSへの没頭)、愛着の不足、親への反抗的な態度、対人関係の不器用さを挙げている。

一方、親の共通点としては子どものトラブルに父親が関わってくる、加害側の父親が謝罪できない、被害者の親が許容できない、トラブルの長期化、物事を自分で決められない、子どもと親の思考・行動が一体である、子どもの言うことを呑み込んでしまう傾向がみられるという。フツウの親が育ちにくくなっていると、コメントーターからは「子どもを通して社会を考える」ことの必要性が語られた。



北陸ブロック担当理事 石井 パートマン 麻子

北陸ブロック「現場セミナー」

2015年11月21日(土)、22日(日)の日程で、「障がいのある人が生き生きと働く職場とはーチャレンジの経験から考えるー」をテーマに、福井県鯖江市で現場セミナーを開催した。2014年12月にオープンしたJR鯖江駅舎2階の“えきライブラリー”内“café&sweets こころ”を会場とし、夕方から開始したセミナーには74名(学会員7名、地元福井県からの非学会員67名)が参加した。

“NPO法人小さな種・こころ”で働くチャレンジ(発達障害や知的障害、精神障害等の当事者)4人にパネリストとして登壇いただき、各々の経験が率直に語られると、会場には静かな共感の空気が広がり、真剣且つユーモアのある温かな雰囲気になりました。懇親会では、こころ特製の手打ちそばやシフォンケーキ等を堪能しながら、ざっくばらんな話し合いが行われた。2日目のミニ・グリーンツーリズムには7名が参加し、原木しいたけぼだ場とこころファーム等を見学した。



セミナー会場風景

関西ブロック担当理事 脇坂 博史

関西ブロック「現場セミナー」

関西ブロックの取り組みは、研究会3回、現場セミナー2回のほか、共同作業としては、桃山学院大学和泉キャンパス移転20周年記念講演会「ヘルンケラーの手紙」、日本認知症ケア学会からの災害ボランティアについての投稿依頼への協力、釜石の共同制作作品「キルト展示会」(12月11日～14日・大阪市内)の開催があげられる。

現場セミナー2回目は「住み慣れた地域で、安心して過ごせる小規模多機能施設」をテーマに、西宮市にあるNPO法人「つどい場さくらちゃん」を訪ねた。理事長の丸尾多重子さんから、これまでの活動を伺った。ご両親や兄上の介護の経験から、住み慣れた住居や地域で最期を迎えることの実現を目指す。認知症ケア学会からの依頼には、本会から、災害時の高齢者への支援、帰宅困難者による活動支援についての考察を提出した。その他は障がい者支援、地域住民の共助、防災・減災教育についての論文をまとめたものである。

九州ブロック担当評議員 志賀 俊紀

九州ブロック「長崎大会」

九州地区福祉文化学会は、2015年11月15日長崎県南島原市ほかにわ共和国で開催された。参加者は九州一円の施設関係者及び一般の市民の方々であった。大会はほかにわ共和国のヘルマンハーブ演奏がオープニング、九州ブロック理事日比野正己氏より大会の趣旨を説明された。地元市長の挨拶、並びに教育長のメッセージを頂いた。

日比野正己大会会長は、記念講演において、福祉文化の展開とその応用について、故一番ヶ瀬康子の提唱されていた“現場に学ぶ”“セミナーに学ぶ”の大切さを示唆された。続いて志賀俊紀実行委員長は、施設における実践として、福祉文化的生き甲斐の5K(互惠)の概念について講話を行なった。現場からの実践報告に関しては、知的障害者施設における、他界のあり方とそれを支援する職員の実践、道路アダプト実践、ヘルマンハーブのこれまでの実践が示された。そして、佐世保市NPO法人孫の手は、老人と幼児の実践(神戸大会で発表)、及び、長崎純心大学大学院後期課程李さんの研究発表(神戸大会での発表をグレードアップした実践)があった。

最後は、サプライズ、オリジナルの曲によって太極拳の披露、そして、2001年、初代会長一番ヶ瀬康子先生を、お迎えした九州ブロック大会における、お宝映像で幕を閉じました。次の大会は、熊本で行なうことが申し合わせされ、熊本県地区の代表からご挨拶があった。



開会式での利用者によるヘルマンハーブ演奏



さくらちゃんにて。丸尾理事長(右端)

